

1. 実施内容

(1)実施日時

11月23日(火・祝)~12月1日(水) (9日間)
 ※設営期間：11月21日(日)~22日(月) 撤去期間：12月2日(木)
 (なんば駅周辺道路空間再編社会実験：11月23日(火・祝)~12月2日(木))

(2)実施場所

なんば駅前 (大阪市中央区難波5/高島屋大阪店となんばマルイの間の空間)



(3)主催者等

- 主催：なんば広場マネジメント法人設立準備委員会(代表会社：南海電気鉄道(株))
- 占用主体：大阪市計画調整局
- 協力：なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会(地元27団体)
- 企画運営協力：(有)ハートビートプラン

(4)実施目的

・将来歩行者空間へと再編された駅前広場の利活用を見据え、高質な日常の憩い空間のあり方や運営方法の可能性に関する試行を行い、将来の運営に向けた設計や事業計画等の検討を行うことを目的とする。

(5)実施内容

①高質な憩い空間の創出



②喫煙所の移設 ③観光案内 ④広場隣接施設滲み出し



(6)検証項目

大項目	小項目	詳細	調査方法						関連プログラム				
			①滞留行動調査	②人流計測	③利用者アンケート	④企業ヒアリング	⑤周辺事業者アンケート	⑥その他	①滞留空間	②広告	③喫煙所	④観光案内所	⑤広場隣接施設滲み出し
①設計プラン検証	・動線と滞留空間のゾーニング	日常における動線と滞留空間の検証 利活用区域と歩行者動線の幅員の検証	●	●	●			●	●				
	・喫煙所	喫煙所の規模の検証	●	●						●			
	・広場隣接施設・滲み出し	滲み出しエリアと動線の位置の検証	●	●									●
	・広告	将来の設置位置に、A型看板等を置き見え方などを検証				●				●			
②事業計画検証	・広場隣接施設・滲み出し	日常的な滲み出しの事業内容・運用の検証				●							●
	・観光案内	観光案内所の運営方針の検証				●						●	
③運営計画・ガイドライン検証	・可動式の机・椅子の運用	日常における適切な机と椅子の数の検証 適切な夜間管理の検証	●						●	●			
	・トラブル対応	トラブル発生の有無の検証							●				
	・御堂筋含めた周辺との回遊性	御堂筋と連動した人流データの検証/御堂筋チャレンジと連動した企画の検証		●					●				
④その他													

(7)調査方法

調査内容	調査日	詳細
①滞留行動調査	平日：11月29日(月) 休日：11月27日(土) ※時間：8時~0時	A)滞留行動種類・位置 ・毎時30分時点の滞留状況を目視にて記録(計14回/日) ・調査項目は、下記の6項目 ①滞留行動、②性別、③体制、④属性、⑤滞留人数、⑥滞留位置 ・通常時と社会実験期間中で調査時間が異なるため、比較の場合は、8時30~23時30分のデータで比較 B)滞留時間・人数 ・ミリ波を用いて滞留時間・人数(6~7ゾーンに区分し、現地で計測)を調査 C)喫煙所利用実態調査 ・調査員により、喫煙所利用人数を計測し、利用人数(5分枚累計)を調査
②人流計測調査	平日：11月29日(月) 休日：11月27日(土)	・現地に設置するセンサーにより、なんば広場滞留空間周辺の流動人数を調査(参考)交通社会実験では、既存歩行者動線のカウント調査を実施
③利用者アンケート	全日	○回答総数：890件 (WEB回答：388件、紙面回答：502件) ※設問ごとに有効回答のみで集計、無回答を除いた回答数を各設問に記載。 ・広場の利用者に対してアンケートを行い、滞留空間の評価、利用目的、周辺エリアへの回遊状況等を調査 ・アンケートのURL (QRコード) を配布し、来場者により入力を依頼
④企業ヒアリング	社会実験実施後	・参加・協力企業に対してヒアリングを行い、事業性の検証等を実施 滲み出し沿道企業：得られた効果 (期待している効果) 今後の活用意思・内容・賃料想定 等
⑤周辺事業者アンケート	社会実験後 2022/1/7(金) ~1/20(木)	○回答数73件 (紙面回答：42件、WEB回答：31件) ・質問項目と、WEB入力フォームにアクセスできるQRコードを記載したアンケート用紙を配布 ・①FAXにて返信、②WEB入力のいずれかで回答を収集
⑥その他	全日	・トラブル発生の有無・内容の調査 (夜間管理、客引き など)

※①②の調査日の気温・天気は下記の通り。
 平日：11月29日(月) 天気：晴れ、最高気温：15.1℃、最低気温：4.6℃
 休日：11月27日(土) 天気：晴れのち曇り、最高気温：12.8℃、最低気温：6.5℃

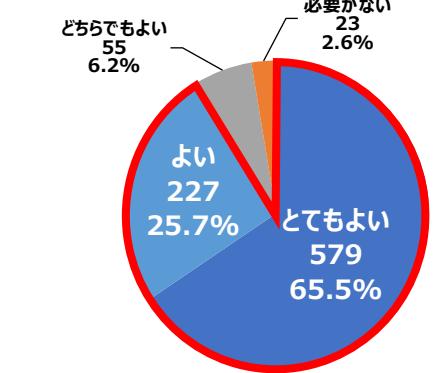
2. 調査結果 (1)全体総括

① 本計画への意見

● 利用者の意見 利用者アンケート

・「とてもよい」「よい」が合わせて約9割となり、多くの方の賛同を得ている。

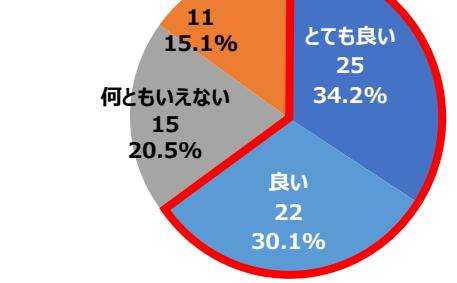
○ 将来、この広場を歩行者のための空間に改造することについてどう思いますか。(SA=884)



● 周辺事業者の意見 周辺事業者アンケート

・「とても良い」「良い」の回答が約6割。
・「何ともいえない」と答えた人は、自身に直接の影響はないと思われるものの、周辺店舗の営業に支障が出ていることや、ハード整備だけでは魅力に感じないことを理由に挙げている。

○ 取組についてのあなたのお考えをお聞かせください (N=73)

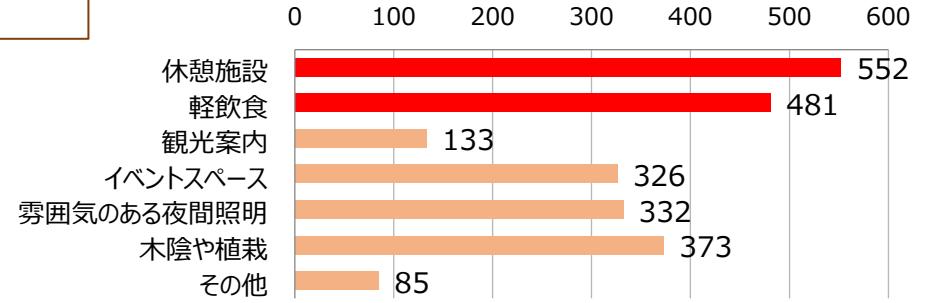


② 広場に必要機能

・「休憩施設」が最も多く、次いで「軽飲食」が多く、休憩をしながら、軽飲食を楽しみたいニーズがあることが分かる。

● 広場に必要機能 利用者アンケート

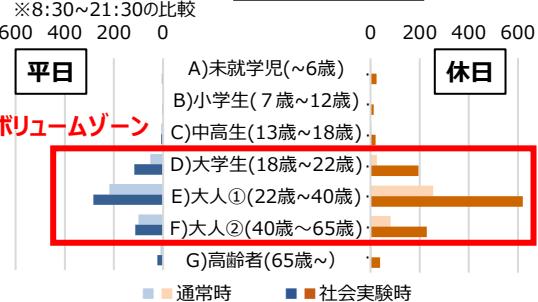
○ 将来、広場にどのようなものがあるとよいと思いますか。(N=884/MA=2282)



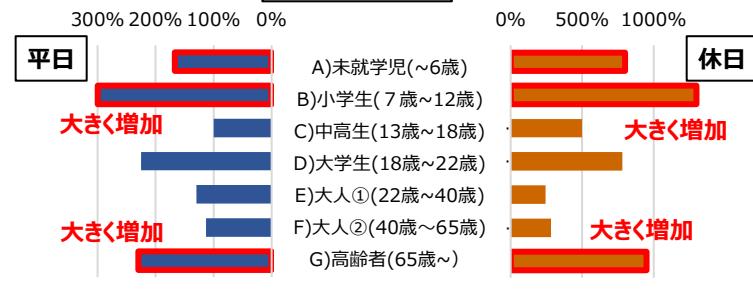
③ 滞留者の属性

・人数では、通常時・社会実験時共に、「大人①(22歳~40歳)」が最も多い。
・増加率では、今まで数としては少ない「未就学児(~6歳)」「小学生(7歳~12歳)」「高齢者(65歳~)」が大きく増加しており、今まで少なかった層に居場所を提供することに繋がっている。

● 属性別人数 滞留行動調査A



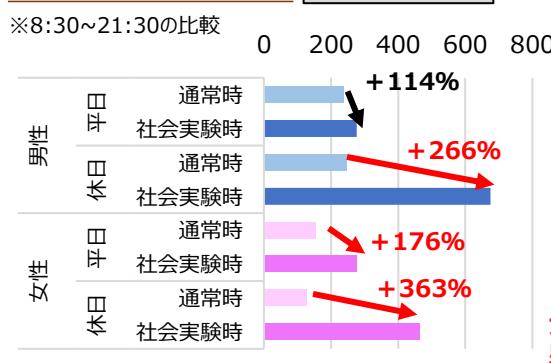
● 各属性の増加率 滞留行動調査A



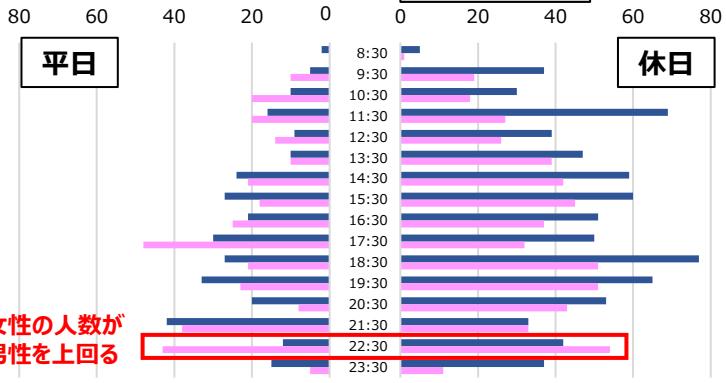
④ 男女別の滞留人数

・女性は、平日・休日ともに滞留者が大きく増加している。(男性は休日のみ大きく増加)
・夜間22:30は女性が男性の人数を上回った。

● 男女別の滞留人数 滞留行動調査A



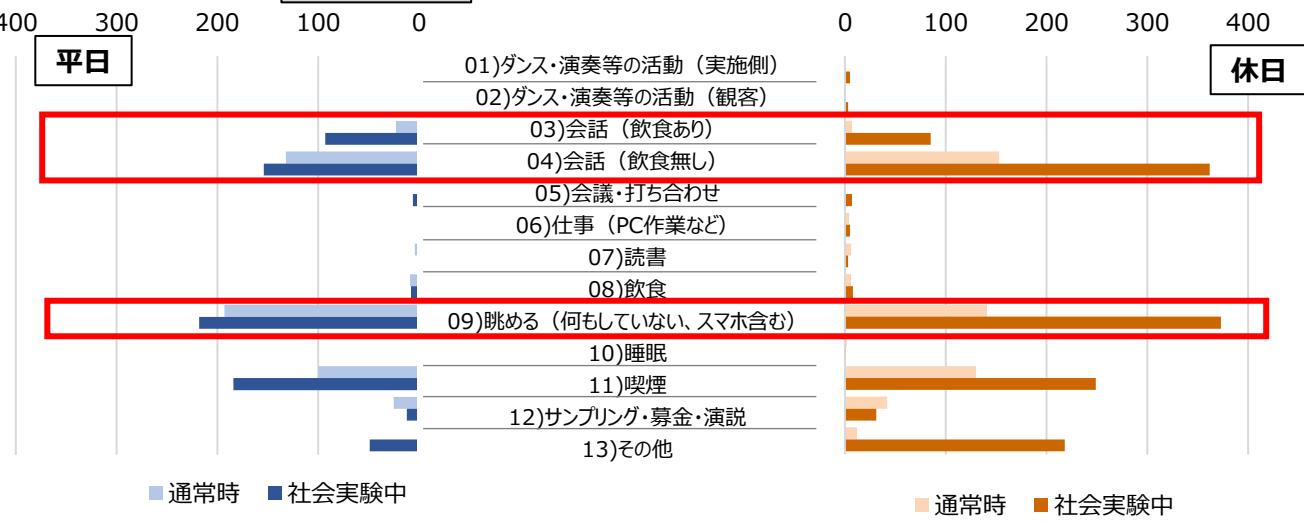
● 時間・男女別の滞留人数 滞留行動調査A



⑤ 滞留行動の種類

・平日・休日ともに、「眺める」「会話」の行動が大きく増加している。
・「任意活動(一人でも楽しめる余暇的な性格の強い活動)」「社会活動(人と人のコミュニケーションを伴う活動)」が大きく増加していることから、従前と比較して居心地のよい空間が生まれているといえる。

● 滞留行動の種類 滞留行動調査A



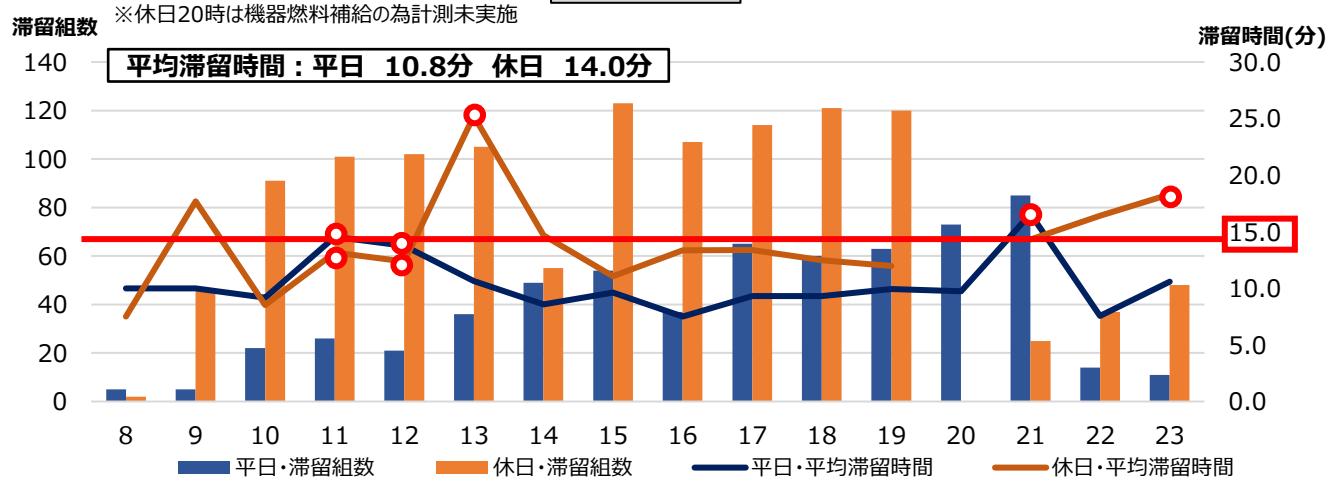
○ 社会実験中の様子



⑥ 滞留時間

・平日・休日共に平均滞留時間が15分以下であり、あまり長すぎない15分程度の休憩・待ち合わせ等で使われている。
 ・正午前後、夜の時間が、平日休日ともに滞留時間が長くなっている。

● 時間別 滞留組数と平均滞留時間 滞留行動調査B



2. 調査結果 (2) 設計プラン検証

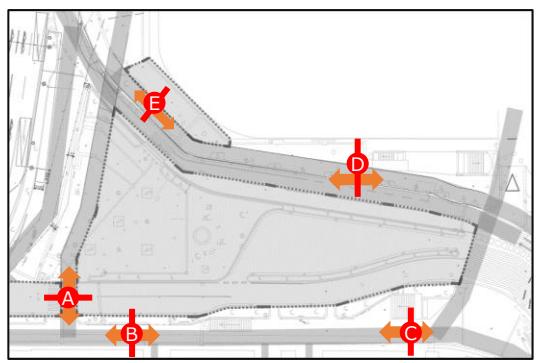
① 利活用区域と歩行者動線の検証

・歩行者動線の幅員は、4mを想定しており、平日・休日共に、全ての断面において、「大規模開発地区関連交通計画マニュアル」のサービス水準A(27人/m・分)を満たす歩行者幅員を確保できている。
 ・マルイ前の滲み出しにおいては、活用区域を確保しつつ歩行者動線も確保できることを確認できた。

【A～Eの断面におけるサービス水準導出の考え方】
 ・社会実験時は、通常時とは異なり、広場を経由して移動した歩行者が存在するため、その歩行者数を各断面に合算し、各断面通行者の実数と広場経由通行者数の合計を、各断面の通行量とし、算出した結果は下表の通り。
 これにより、整備後、仮にイベント等が理由で広場を経由した移動が不可能な場合でも、サービス水準が低下しないことを示すものである。

※サービス水準について (大規模開発地区関連交通計画マニュアルより)
 A 自由歩行 (～27人/m・分)
 B やや制約 (27～51)
 C やや困難 (51～71)
 D 困難 (71～87)
 E ほとんど不可能 (87～100)

※サービス水準算定式：
 必要幅員 = 1時間あたりの人流 (人) ÷ (27(人/m・分)×60(分))



● 交通量調査結果ピーク値(1時間あたり) 人流計測

○ 平日

断面	ピーク値合計	ピーク時間帯	サービス水準判定結果
A	2,128人/時	18-19時	A
B	3,033人/時	17-18時	A
C	2,590人/時	19-20時	A
D	1,156人/時	18-19時	A
E	1,819人/時	17-18時	A

○ 休日

断面	ピーク値合計	ピーク時間帯	サービス水準判定結果
A	3,483人/時	16-17時	A
B	4,459人/時	16-17時	A
C	5,354人/時	15-16時	A
D	2,446人/時	16-17時	A
E	3,933人/時	16-17時	A

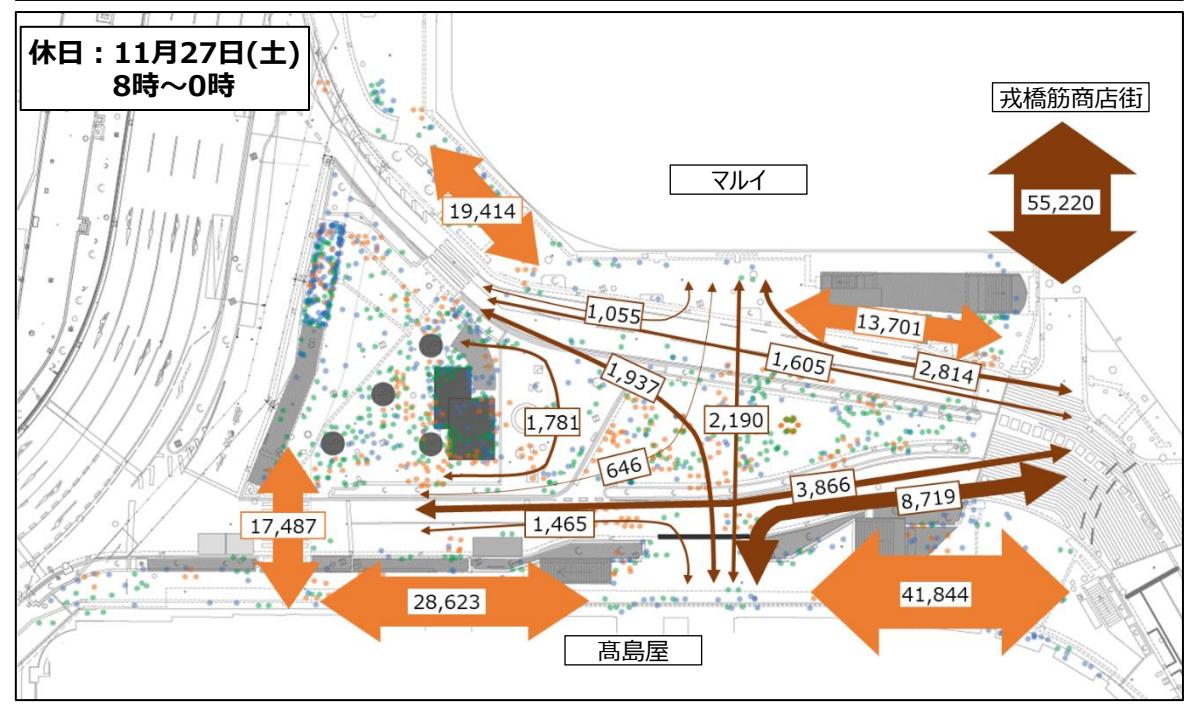
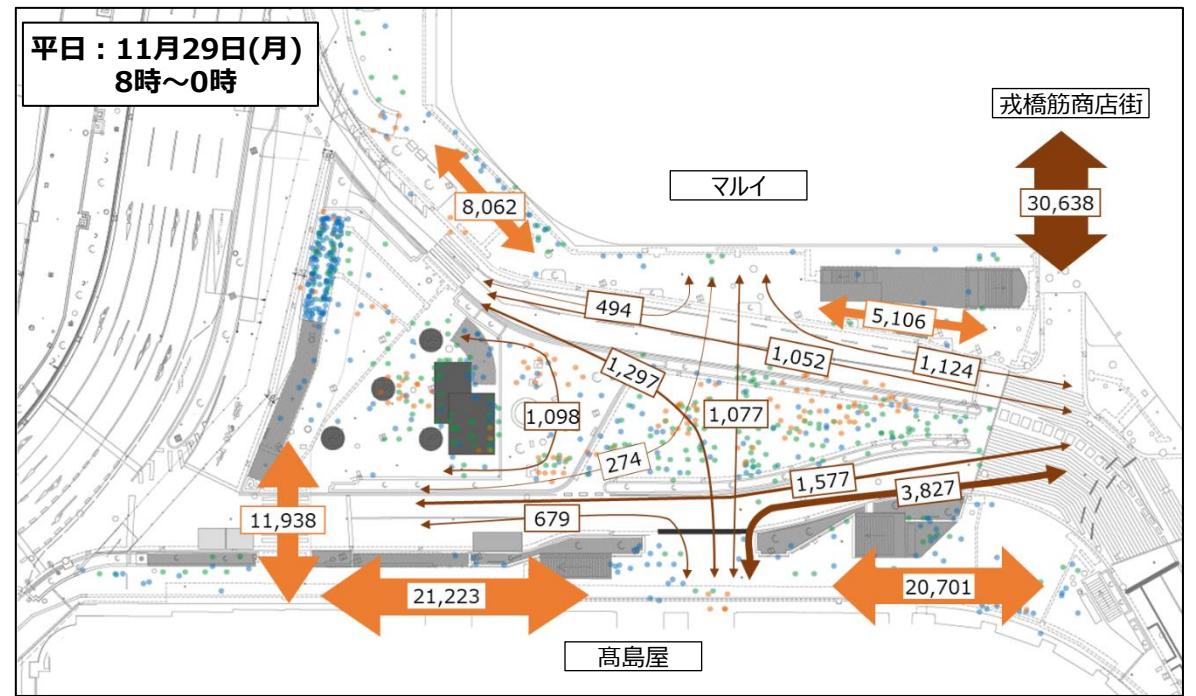
② 日常における動線と滞留空間の検証

・広場を通過する歩行者動線は南海ビル沿い東西・戎橋筋への動線など広場の周縁部の通行が多い。
 ・広場に面する南海ビル出入口・マルイ出入口・それら出入口と御堂筋や商店街を結ぶ動線については、広場の周縁部の通行量より大幅に少なかった。
 ・広場内は偏りなく全体的に人々が滞留し、その周辺部に大きな歩行者動線が生まれており、滞留空間と歩行者動線がゾーニングできていた。

● 歩行者人数と滞留位置 人流計測 滞留行動調査A

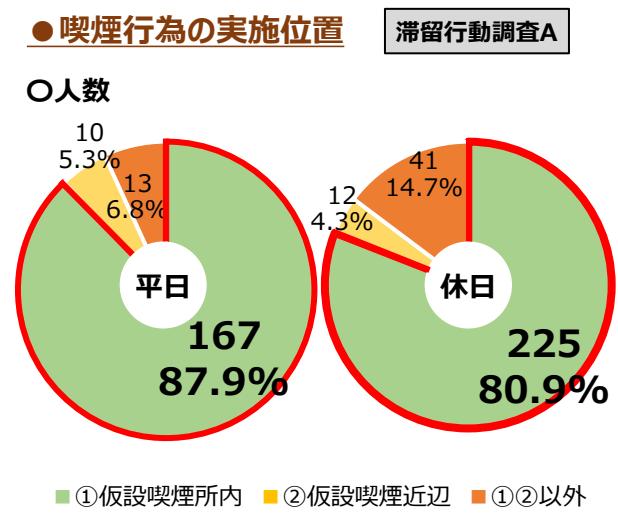
【歩行者人数】8時～0時の歩行者人数 (人/16h)
 ← センサーによる人流計測 → 調査員の目視による歩行者人数調査

【滞留位置】 8時30分～23時30分の毎時30分時点の滞留位置(16回分)をプロットし重ね合わせた図
 ● 1人での滞留 ● 2人での滞留 ● 3人以上での滞留



③喫煙所の規模の検証

・通常時は、喫煙所周辺一帯で喫煙しており、はみ出し喫煙が多かったが、社会実験ではパーテーションを設置して喫煙場所を明確化することにより、平日・休日共に、80%以上の方が仮設喫煙所内（約50m）で喫煙を行っており、平常時に比べ、喫煙者の利用マナーの向上が見られた。
 ・夕方以降は仮設喫煙所の視認性が悪くなり、既存喫煙所での喫煙が見られたため、暗い時間帯に視認性を良くする対策が必要。



3. 調査結果 (3)事業計画検証

①日常的な滲み出しの事業内容・運用の検証

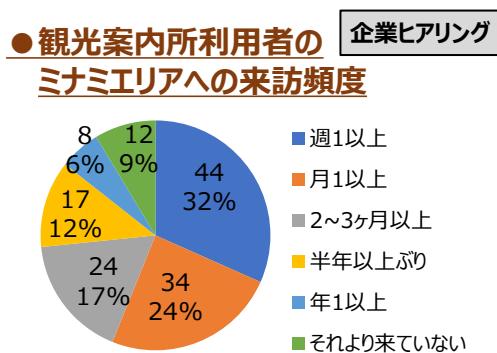
企業ヒアリング

・4mの歩行者空間を確保しながら、滲み出し(建物前空間の活用)を行うことができた。
 ・机や椅子を設置することにより、将来、建物と一体的に活用するイメージを持つことができた。
 ・広場化によって、1階レベルからの入店者の増加など広場隣接施設にプラスの効果を与えることができた。

②観光案内所の運営方針の検証

企業ヒアリング

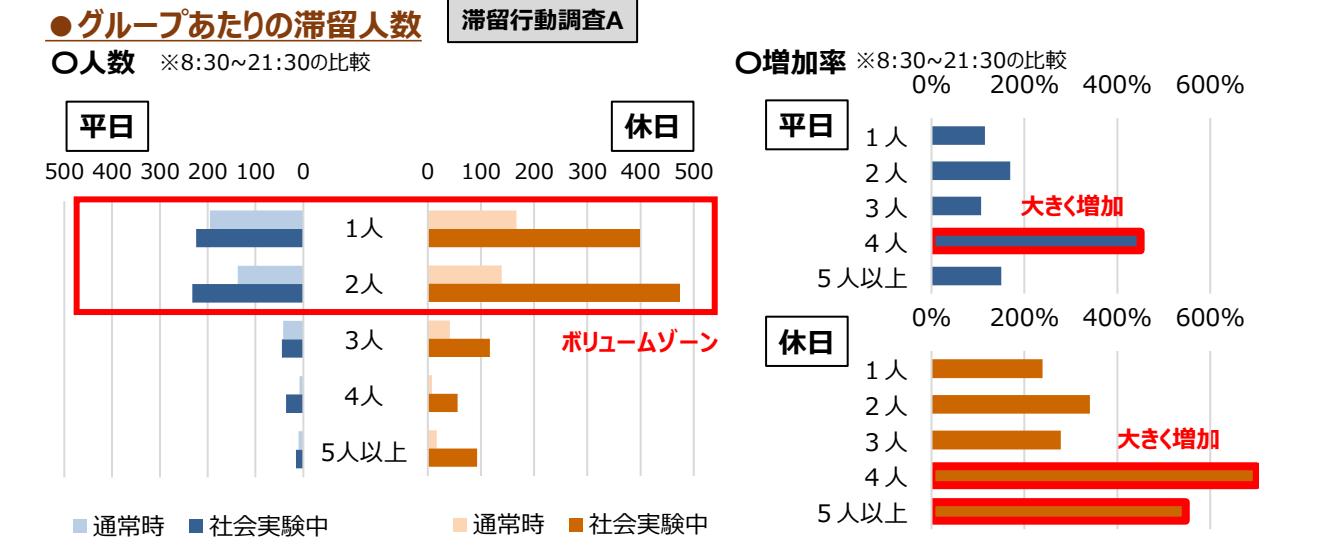
・移動式観光案内には、なんばエリアへの来訪頻度が高い方も多く利用していたこと、既存の観光案内ではできていない提案型の観光案内ができたことから、まちの魅力をより深く伝えることに適した形態だと言える。
 ・観光案内の提案内容としては、グルメ情報、ローカル情報が記載されたMAPの配布、ミナミエリアのイルミネーションの紹介が多かった。
 ・移動式観光案内・チケット販売共に、エリア内の事業者(商店街、劇場、店舗など)と連携することにより、よりよい魅力発信ができる。



4. 調査結果 (4)運営計画・ガイドライン検証

①可動式の机・椅子の運用

・1人～2人で滞留している人が通常時・社会実験時、共に多い。
 ・増加率でみると、4人以上の滞留が大きく増加している。
 ・幅広い利用ニーズに応えるために、自由に動かし滞留人数に柔軟に合わせることができる可動式の机、椅子を設置することが望ましい。



②トラブル対応・安全性

その他

・夜間残置した机・椅子の盗難やいたずらなどのトラブル等が発生していないことに加え、キャッチセールス等の行為が見られなくなった。
 ・通常時と比較して、高齢者、子ども、女性の滞留が増加しており、多くの人が広場に滞留していることで、人の目が行き届く安全・安心な空間であった。

○机・椅子の盗難など
 ・社会実験期間中、机・椅子の夜間残置を行ったが、いたずらや盗難は無かった。
 ○キャッチセールス
 ・社会実験期間中は、キャッチセールスの声掛けがほぼ見られなかった。通常時は、信号待ちの時間を狙ったキャッチセールスが行われているが、信号がなくなることにより、解消されたと考えられる。



▲ 夜間に女性グループが滞留している様子